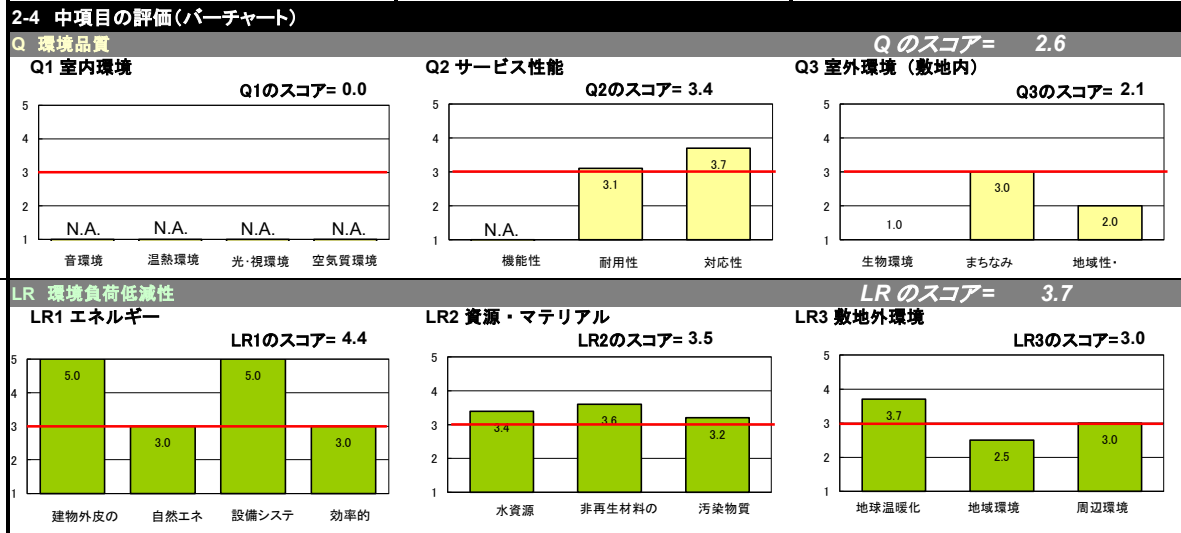
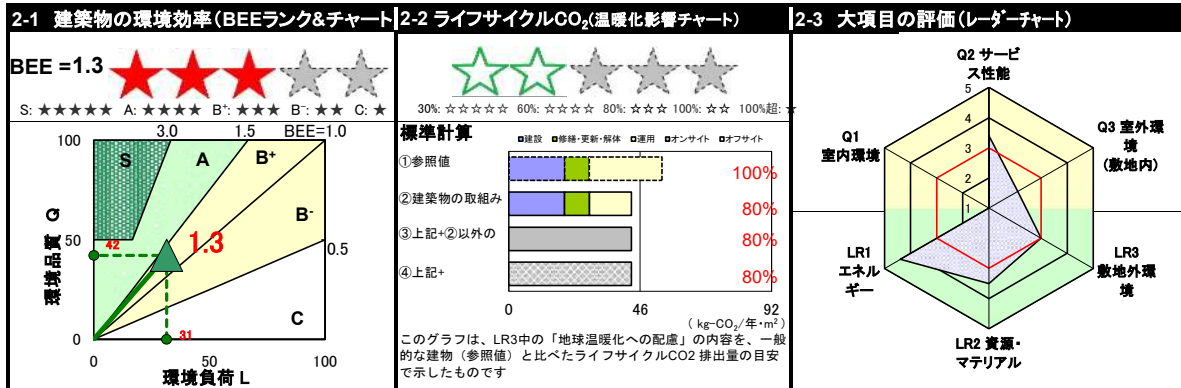


CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社エースペーカーリー春日井工場	階数	地下0階地上3階
建設地	愛知県春日井市田楽町字北植田924番3 ほか 132筆	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	60人
気候区分	6地域	年間使用時間	7,000時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年12月 予定	評価の実施日	2025年10月22日
敷地面積	19,172 m ²	作成者	株式会社エースペーカーリー建築設計事務所 黒坂知美
建築面積	6,163 m ²	確認日	2025年10月22日
延床面積	8,172 m ²	確認者	株式会社エースペーカーリー建築設計事務所 黒坂知美



3 重点項目

①地球温暖化への配慮	3.7	③敷地内の緑化	1.0	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	28.8%
②資源の有効活用	3.4	④地域材の活用	1.0	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0%
<p>各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。</p> <p>①地球温暖化への配慮 LR-3 1 地球温暖化への配慮</p> <p>②資源の有効活用 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減</p> <p>③敷地内の緑化 Q-3 1 生物環境の保全と創出</p>		<p>外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$</p> <p>建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$</p>		<p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>	

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
株式会社エースペーカリー春日井工場

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分			住居・宿泊部分			全体	
配慮項目	独自基準	重点項目				評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質													2.6
Q1 室内環境													
1 音環境													
1.1 室内騒音レベル													
1.2 遮音													
1 開口部遮音性能													3.0
2 界壁遮音性能													3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)													3.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)													3.0
1.3 吸音													
2 温熱環境													
2.1 室温制御													
1 室温													3.0
2 外皮性能													3.0
3 ゾーン別制御性													3.0
2.2 湿度制御													3.0
2.3 空調方式													3.0
3 光・視環境													
3.1 昼光利用													
1 昼光率													3.0
2 方位別開口													3.0
3 昼光利用設備													3.0
3.2 グレア対策													
1 昼光制御													5.0
3.3 照度													3.0
3.4 照明制御													3.0
4 空気質環境													
4.1 発生源対策													
1 化学汚染物質													3.0
4.2 換気													
1 換気量													3.0
2 自然換気性能													3.0
3 取り入れ外気への配慮													3.0
4.3 運用管理													
1 CO ₂ の監視													3.0
2 喫煙の制御													3.0
Q2 サービス性能													
1 機能性													
1.1 機能性・使いやすさ													
1 広さ・収納性													3.0
2 高度情報通信設備対応													3.0
3 バリアフリー計画													3.0
1.2 心理性・快適性													
1 広さ感・景観 (天井高)													3.0
2 リフレッシュスペース													3.0
3 内装計画													3.0
1.3 維持管理													
1 維持管理に配慮した設計													3.0
2 維持管理用機能の確保													3.0
2 耐用性・信頼性													
2.1 耐震・免震・制震・制振													
1 耐震性(建物のこわれにくさ)													0.4
2 免震・制震・制振性能													3.0
2.2 部品・部材の耐用年数													
1 躯体材料の耐用年数													0.3
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔													3.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔													3.0
4 空調換気ダクトの更新必要間隔													5.0
5 空調・給排水配管の更新必要間隔													3.0
6 主要設備機器の更新必要間隔													5.0
2.4 信頼性													
1 空調・換気設備													0.1
2 給排水・衛生設備													3.0
3 電気設備													3.0
4 機械・配管支持方法													3.0
5 通信・情報設備													3.0

3 対応性・更新性					0.4	3.7	0.48	-	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり					0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり				階高6m。断面図添付。	-	5.0	0.60	-	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ				壁長さ比率計算。伏図添付。	3.0	5.0	0.40	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	3.0	0.31	-	3.0	-	
3.3 設備の更新性					0.3	3.4	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性			②		-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性					ケーブルラック使用。幹線図書添付。	3.0	3.0	0.17	-	-	-
3 電気配線の更新性					ケーブルラック使用。通信設備平面図添付。	3.0	5.0	0.11	-	-	-
4 通信配線の更新性						3.0	5.0	0.11	-	-	-
5 設備機器の更新性						3.0	3.0	0.22	-	-	-
6 バックアップスペースの確保						3.0	3.0	0.22	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)					-	-	0.57	-	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			独自③		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー					-	-	0.40	-	-	-	4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制				BP1m=0.75	3.0	5.0	0.20	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.10	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化				BEl=0.58	3.0	5.0	0.50	-	-	-	5.0
4 効率的運用					0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価					-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング					-	3.0	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制					-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	-	0.30	-	-	-	3.5
1 水資源保護					0.4	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水				省水型機器を選択。設備図添付。	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	3.6	0.63	-	-	-	3.6
2.1 材料使用量の削減					-	3.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	-	-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	断熱材：押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種 地業工事：再生クラッシュヤランRC-40	3.0	4.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			独自		3.0	3.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	壁下地にLGS使用。OAフロア使用。仕上表添付。	3.0	5.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.2	0.22	-	-	-	3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	3.3	0.68	-	-	-	
1 消火剤				粉末消火設備。概要添付。	-	4.0	0.33	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)					-	3.0	0.33	-	-	-	
3 冷媒					3.0	3.0	0.33	-	-	-	
LR3 敷地外環境					-	-	0.30	-	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率80%	-	3.7	0.33	-	-	-	3.7
2 地域環境への配慮					0.3	2.5	0.33	-	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止					-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制					-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制			独自	駐車場、駐輪場の十分な確保。	-	5.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮					0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音			独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2 振動			独自		-	-	-	-	-	-	
3 悪臭					-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制					-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制					-	3.0	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制					-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制					0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					-	3.0	0.70	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE: 建築(新築)2016年版+あいち版手引き

株式会社エースペーカリー春日井工場

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	
② 資源の有効活用				3.4
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:28.8%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 株式会社エースペーカリー春日井工場

計画上の配慮事項	
総合	基本理念である、安全・品質・安定。生産ラインと建築・建築設備との融合。
Q1 室内環境	評価対象外。
Q2 サービス性能	事務室の天井高2.7mとした。
Q3 室外環境(敷地内)	外構緑化指数28.8%とした。
LR1 エネルギー	BPI _m =0.75とした。
LR2 資源・マテリアル	省水型便器(擬音装置付)を採用した。
LR3 敷地外環境	適切な量の駐車スペースを確保し、荷捌き用駐車スペースを確保した。
その他	